



同定会の様子

で私の願いも叶い、コブクロモクやソデガラミなどの見たことのない海藻を見ることができました。昼食後の同定会では、皆様の知識と情熱を目の当たりにして自分の不勉強さを痛感しました。研究対象の1種に注目するのではなく、広い視野を持って我々を取り巻く環境と真摯に向き合おうと堅く決心しました。今回の参加を通じて、道と同じくする同年代の学



参加者集合写真

生と知り合えたこと、彼らと語り合い自身の研究に対する姿勢を見つめ直せたことがなによりも嬉しいことでした。末筆ながら、エクスカージョンの企画・運営に尽力して下さった高知大学総合研究センター海洋生物研究教育施設、大会準備委員の皆様にご心よりお礼申し上げます。

(東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科)

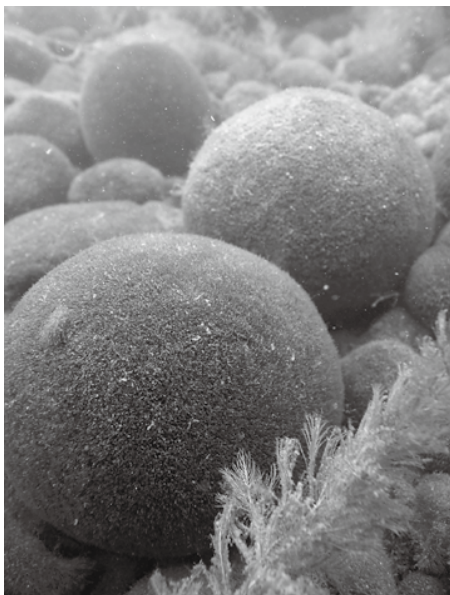
国立科学博物館企画展

マリモの謎

—どこからきたのか？ なぜまるいのか？—

2017年8月22日(火)～10月9日(月、祝)

今年は、1897年(明治30年)8月23日に札幌農学校の学生だった川上瀧彌(1871—1915)が、阿寒湖で毬のように球状で美しい藻を発見して120年目にあたります。翌年、川上は『植物学雑誌』にこの藻を報告し、新称「まりも」を発表しました。以来120年間、この奇藻がどこからきたのか、そしてなぜ丸くなるのか、数多くの藻類学者がその謎に挑戦してきました。そして、それはマリモと阿寒湖の環境保全の歴史でもあります。



この記念の年、上野の国立科学博物館では、釧路市教育委員会マリモ研究室(室長:若菜勇)の協力を得て、国の天然記念物そして環境省指定絶滅危惧種でもあるマリモを生きたまま展示する企画展を開催することにいたしました。この企画展では、マリモの起源と球化現象についてこれまでに明らかにされた研究成果を紹介するとともに、生物多様性保全の実戦地である阿寒湖で行われている、マリモ群落を保全する試みの一端を体験していただく予定です。

なお、本企画展は入館料のみでご覧いただけます。阿寒湖からの緑の使者マリモにぜひ会いに来てください。(北山太樹)

【国立科学博物館】

開館時間：午前9時～午後5時(金・土曜日は午後8時まで)

入館は各閉館時刻の30分前まで。

休館日：毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は翌火曜日)。

入館料：一般・大学生は620円(団体310円)。

高校生以下および65歳以上は無料。

所在地：東京都台東区上野公園7-20

交通：JR山の手線 上野駅公園口から徒歩5分。

問合せ：Tel 03-5777-8600(ハローダイヤル)

URL：<http://www.kahaku.go.jp/>

藻の見遊山